



1枚の木で作る「3連時計」が結婚式で新郎新婦が両親に手渡す贈り物として人気だ。新婚夫婦と両家の3つの家で門出の日から同じ時を刻む。製造する木工房蔵（福井県越前市）の竹内良介社長は「お客の笑顔に触れるのが一番うれしい」と話す。

贈り物に「3連時計」

木工房蔵社長 竹内良介さん

商品化のきっかけは昨秋「後日、結婚式の写真に受けた、急いで時計を3つ作ってほしい」という注文だった。10年ほど前に時計のネット通販を始めたが、同じ客が一度に複数個を注文するのは珍しい。一つ一つ作る余裕はなく、1枚の板を3分割して作り、何とか納期に間に合わせた。

1月に「Musubi（結び）」ブランドで本格販売を始めた。婚礼情報誌に広告を出し、婚礼業界の見本市に出展すると、月に注文が増え、7月には約200件に達した。

門出の日から同じ時刻む

越前市の工房での手作り体験も人気だ。結婚する男女に、両親に贈る3連時計を実際に作ってもらう。板の切断は機械ではなく、のこぎりを使う。「慣れないから切断面がガタガタになるが、それがかえって思い出になる」

2人が手作りする様子は写真に撮って提供する。結婚式で両親に手渡す時に、式場のスクリーンに映してもらおうという趣向だ。

購入者の多くが結婚式の写真を同封した感謝の手紙をくれる。「写真の満面の笑みを見るのは作り手にとってこの上ない幸せだ」

結婚披露宴は新郎新婦の両親への花束贈呈で終わるのが一般的だったが、最近は一生涯残る品を贈る演出が増えている。竹内社長は「3連時計は世界に同じものが2つとなく、新婚夫婦と両親にとって特別な品になる。両親へのプレゼント市場でシェア1位をめざす」と意欲を見せる。

|| 35歳、福井県越前市出身